

埼玉古墳群の前方後円墳の形態に関する一考察

八代研究室
01212091 中村 忠

1. はじめに

埼玉古墳群は、ものづくり大学の東 3 km、県名発祥の地とされる「サキタマ」の地にあり、前方後円墳 8 基と円墳 1 基が残る全国有数の大型古墳群である (図 1)。高橋一夫『鉄剣銘一一五文字の謎に迫る・埼玉古墳群』(新泉社 2005 年) によれば埼玉古墳群には 3 つの方位系列 (図 1 の A, B, C) があるといわれている。写真 1 は高松空港にあるイサム・ノグチの彫刻作品「TIME AND SPACE」であり、半球と三角錐が合体したその形態については日本の前方後円墳の影響が指摘されている。本研究ではノグチの彫刻作品にヒントを得て前方後円墳を 2 つの錐体の相貫体とみなし、日本各地の前方後円墳の中での埼玉古墳群形態の位置づけについて考察する。



図1 埼玉古墳における三つの主軸方位系列

2. 分析方法

前方後円墳の形態については、既往の研究において図 2 の①-③のような計測部位が提案されている。本研究ではそれらを勘案し、周濠を除いたいわゆる「前方・後円」の 2 つの幾何立体に着目し、図 2-④に示すように、前方部を三角錐、後円部を円錐とみなし 2 つの錐体の規模の大小関係に着目して分析を行う。

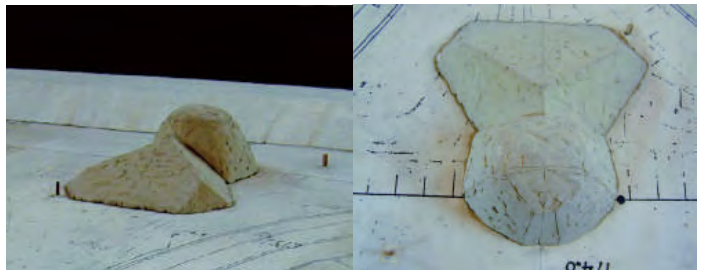


写真1 イサム・ノグチ「TIME AND SPACE」模型

分析対象を表 1 に示す。ここに掲げる 50 基の前方後円墳は近藤義郎『前方後円墳集成 (中国・四国編,九州編,中部編,近畿編,関東・東北編)』(出川出版 1991~1994 年) から抽出したもので、3 世紀から 6 世紀にかけての全国の前方後円墳に埼玉古墳群の 8 基 (表中の網掛け) を加えたものである。

3 世紀中ごろから 7 世紀初頭にかけて前方後円墳は造られていて、大まかには 4・5・6 世紀で前期・中期・後期に分けられている。埼玉古墳群は 5 世紀後半から 6 世紀末に築造されているので後期に属するといわれている。

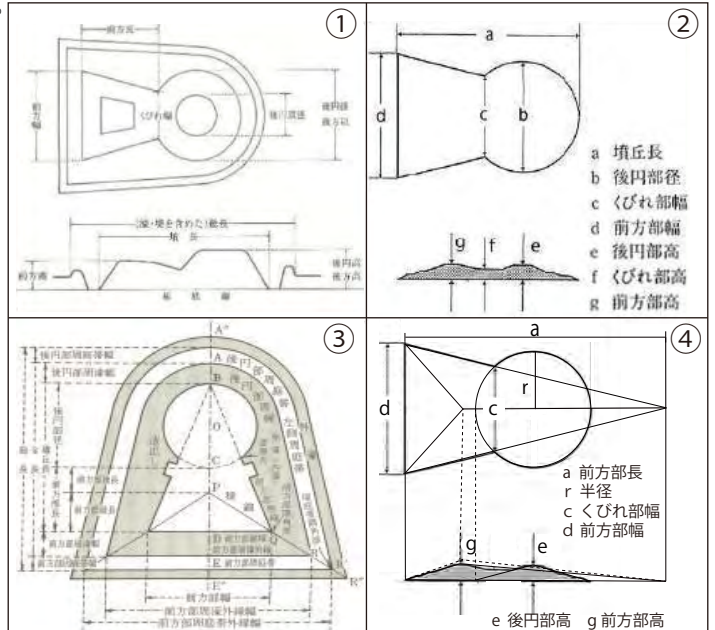


図2 古墳の計測部位一覧

- ①近藤義郎「前方後円墳集成」出川出版1994年
- ②小澤一雅「前方後円墳の数理」雄山閣出版1988年
- ③上田宏範「前方後円墳(増補新版)」学生社1996年
- ④本研究で採用した寸法

表1 時代場所まとめ

No.	古墳名	年代	所在地	象限
1	唐子台15丘	前期	愛媛県	3
2	高松茶臼山	前期	香川県	3
3	雨の宮2号	前期	石川県	3
4	箸墓	3世紀中頃	奈良県	3
5	西殿塚	3世紀後半	奈良県	3
6	椿井大塚山	3世紀末	京都府	3
7	桜井茶臼山	4世紀初頭	奈良県	3
8	メスリ山	4世紀初頭	奈良県	3
9	崇神陵	4世紀前半	奈良県	3
10	景行陵	4世紀後半	奈良県	3
11	垂仁陵	4世紀後半	奈良県	3
12	松林山	4世紀後半	静岡県	3
13	成務陵	4世紀末頃	奈良県	3
14	日葉酢姫陵	4世紀末頃	奈良県	3
15	和泉黄金塚	4世紀末頃	大阪府	3
16	加瀬白山	4世紀後半	神奈川県	3
17	寺谷銚子塚	4世紀中頃 後半	静岡県	3
18	五色塚	4世紀末 -5世紀初頭	兵庫県	3
19	巢山	4世紀末 -5世紀初	奈良県	3
20	築山	4世紀末	奈良県	3
21	応神陵	5世紀初頭	大阪府	1
22	履中陵	5世紀初頭	大阪府	2
23	室大墓	5世紀初頭	奈良県	3
24	コナベ	5世紀前半	奈良県	2
25	馬見新木山	5世紀前半	奈良県	2
26	仲津媛陵	5世紀前半	大阪府	2
27	御廟山	5世紀前半	大阪府	2
28	西陵	5世紀前半頃	大阪府	1
29	仁徳陵	5世紀前期 -中期	大阪府	2
30	太田天神山	5世紀前半 -中期頃	群馬県	2
31	ウワナベ	5世紀中頃	奈良県	1
32	継体陵	5世紀中頃	大阪府	1
33	磐之媛陵	5世紀中葉 -後半	奈良県	2
34	土師ニサンザイ	5世紀後半	大阪府	2
35	允恭陵	5世紀後半	大阪府	1
36	白鳥陵	5世紀後半	大阪府	1
37	宇度墓	5世紀中 -後半頃	大阪府	2
38	稲荷山	6C後半~末	埼玉県	2
39	二子山	6C前半	埼玉県	1
40	愛宕山	6C前半~中	埼玉県	3
41	断夫山	6世紀前半	愛知県	1
42	岩戸山	6世紀前半	福岡県	1
43	奥の山	6C中前半	埼玉県	1
44	今城塚	6世紀	大阪府	1
45	瓦塚	6C中	埼玉県	2
46	鉄砲山	6C中~後半	埼玉県	1
47	將軍山	6C後半	埼玉県	1
48	河合大塚	6世紀後半	奈良県	1
49	見瀬丸山	6世紀後半	奈良県	1
50	中の山	6C末~7C初	埼玉県	1

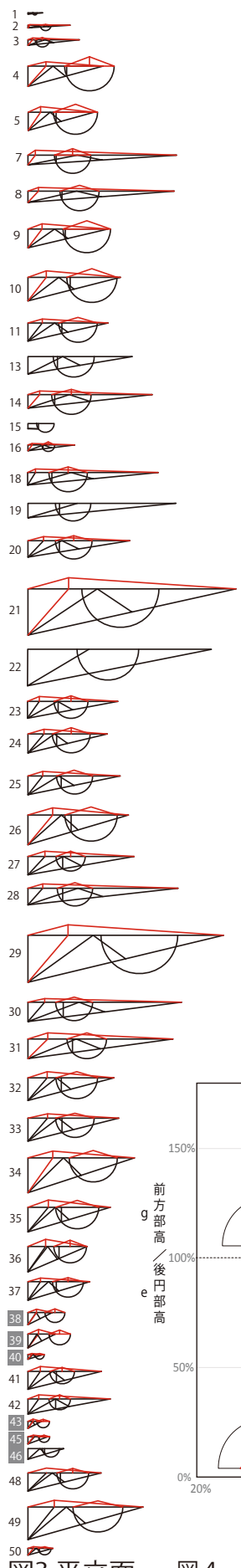


図3 平立面

3. 分析

図3は図2 - ④にしたがい表1の各古墳の横に表記した分析対象の平立面であり、左の数字は表1のNo.を示す。なお図3から前方後円墳の規模は前期から中期にかけて大きくなっていき、21. 応神陵 22. 履中陵 29. 仁徳陵で最大に達する。埼玉古墳群の中で最大の 39. 二子山は全国最大の仁徳陵の 1/3 以下になっている。

図4は前方後円墳の前方と後円の大きさの関係を示す。すなわち縦軸は前方部/後円部の高さ関係を、横軸は前方部幅/後円部径の平面規模の関係を示す(数字は表1の分析対象)。なお將軍山は壊れている時の数値を取っているためここでは例外として扱った。図4から全体的に時代が下るに従い左下から右上に移動していることが分かる。すなわち時代を追うごとに前方が高さ・幅ともに後円部よりも大きくなっていくことがうかがえる。

埼玉古墳群について見ると、縦軸と横軸の交差点に集中している。すなわち前方と後円の高さ及び幅がほぼ等しくなっているが、主軸方位別にみっていくと、前方が高くなる傾向が認められる。

4. おわりに

前方後円墳は初期のころは前方より後円の方が大きかったが、時代が降るに従い前方が後円より大きくなっていく傾向にある。埼玉古墳群は前方と後円の高さ・幅がほぼ等しくなっているが、主軸方位別にみっていくと、前方が高くなる傾向が認められた。

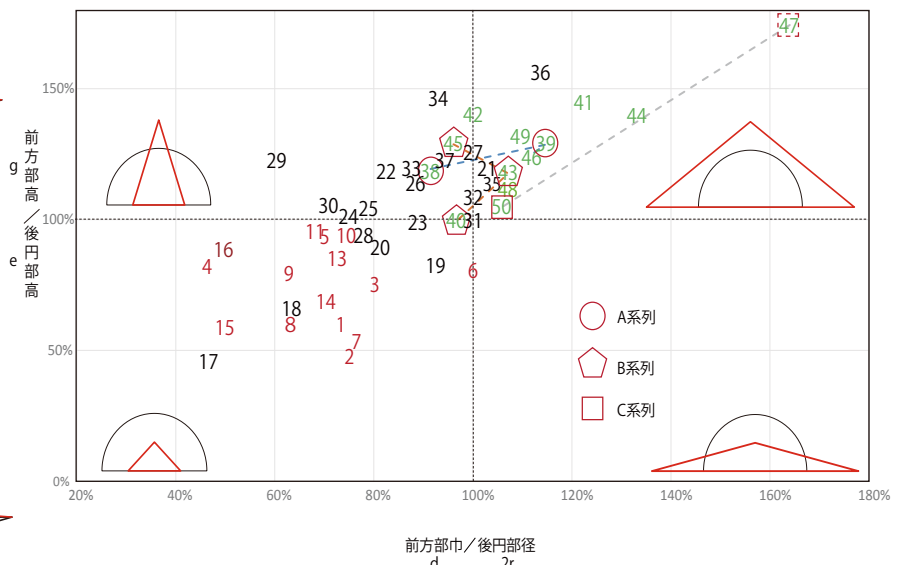


図4 前方後円墳の前方と後円の大きさの関係 (記号は図2の④による)